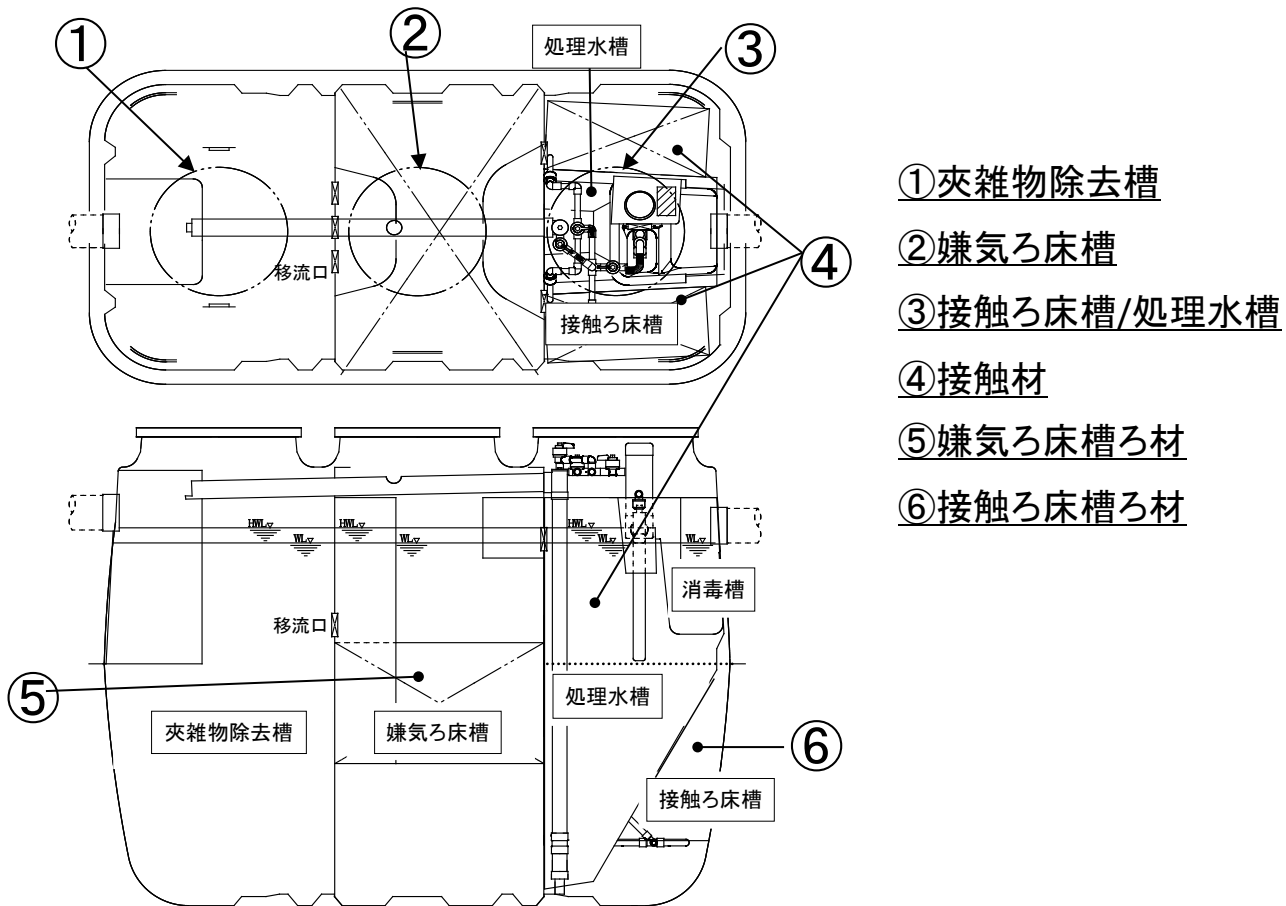
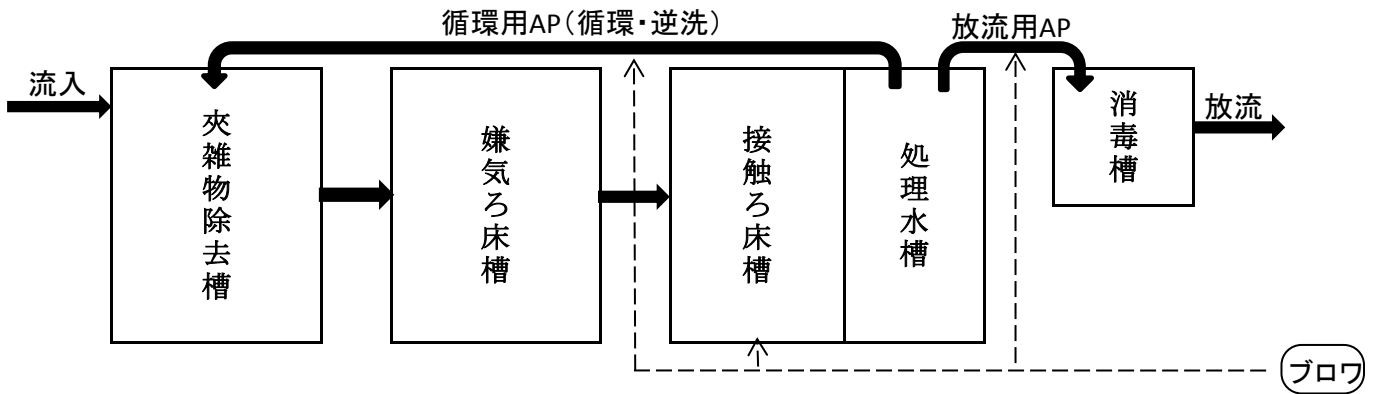


| | | | | | |
|---|--------------|----------|----------|--|--|
| CE フジクリーン工業(株) OEM: なし 共同開発: なし 処理方式: 接触ろ床方式 5・7・10人槽 | 窒素除去型 | | 全浄協登録値 | | |
| | BOD | SS | T-N | | |
| | 20mg/L以下 | — | 20mg/L以下 | | |
| | 性能評定または性能評価値 | | | | |
| | BOD | SS | T-N | | |
| | 20mg/L以下 | 20mg/L以下 | 20mg/L以下 | | |



| 有効容量 (m ³) | | 5人槽 | 7人槽 | 10人槽 |
|------------------------|--------|-------|-------|-------|
| 槽名 | 夾雑物除去槽 | 0.749 | 1.048 | 1.502 |
| | 嫌気ろ床槽 | 0.751 | 1.052 | 1.498 |
| | 接触ろ床槽 | 0.380 | 0.482 | 0.687 |
| | 処理水槽 | 0.168 | 0.237 | 0.339 |
| | 消毒槽 | | 0.015 | 0.021 |
| 合計 | | 2.063 | 2.834 | 4.047 |

| 槽底部からろ材受け面までの距離(mm) | 嫌気ろ床 | 5人槽 | 7人槽 | 10人槽 |
|---------------------|------|-----|-----|------|
| | | 470 | 490 | 500 |

| 循環装置 | 循環装置バルブ目盛(%) | | | 放流バルブ 目盛(%) | 散気バルブ 目盛(%) | 人槽 | ブロウ風量(ℓ/分) |
|------|--------------|-------|-----|----------------|----------------|-------|------------|
| | 5人 | 7人 | 10人 | | | 5人 | 60 |
| 有 | 30~35 | 25~30 | | 40 | 50 | 7・10人 | 80 |

[人槽に対する循環移送水量の設定範囲]

| 人槽 | 5 | 7 | 10 |
|-----------|---------|---------|---------|
| 循環水量(ℓ/分) | 1.4~2.8 | 1.9~3.9 | 2.8~5.6 |

・循環移送水量は、(1)使用水量(日平均汚水量) (2)実使用人員、(3)人槽 の優先順位で判断して上記の範囲になるように調整してください。

特 徴

夾雑物除去槽 流入水に含まれる大型の固形物、油脂等が分離され、貯留される。

嫌気ろ床槽 骨格様球状ろ材が充填され汚水が下向きに流れる過程で固形物を分離、貯留する。

接触ろ床槽 槽上部に板状接触材、下部にヘチマ様円筒状ろ材が充填されており、槽底部に設置された楕円形の散気管(2系列)によって全面ばっ気される。槽内水が下向きに流れる過程で、上部においてはBOD除去と消化反応が促進され、下部ではBOD除去と消化反応に加えてSSの補足が進行し、その流出水は槽底部より処理水槽へ移流する。また、流出水の一部は槽底部のエアリフトポンプにより夾雑物除去槽へ循環される。

処理水槽 底部は3面ホッパー構造である。これにより、固形物が槽底部に沈殿し、循環水とともに移送される。処理水はエアリフトポンプの取水口より消毒槽に移送される。

作 業 時 の ポ イ ン ト

保守点検

- ①接触材・ろ材の手動逆洗を実施する。必要に応じて散気管を洗浄する。
- ②放流バルブを閉じた後、循環バルブを70~80%に開いて1分間槽内水を移送する。次に循環バルブを元に戻し、散気バルブを片側ずつ1分間程度全開にして生物膜を剥離させる。続いて散気バルブを元に戻し、循環バルブを70~80%に開いて1分間槽内水を移送する。これらの操作を3回程度繰り返す。
- ③循環水量が適正な量(上表参照)になっているか必ず実測して確認してください。
- ④放流用エアリフトポンプの閉塞防止を図る。必要に応じて配管を洗浄する。
- ⑤通常ばっ気の状態に著しい偏りがないか確認してください。

清掃

- ①夾雑物除去槽及び、嫌気ろ床槽については全量引き抜いてください。